

Cultural Assets

- 御宿町の文化財 -

御宿町の指定文化財は、国・県指定を合わせて35の工芸品等があります。これらの文化財は、管理者のもとで厳重に保管されていますが、なかには「最明寺夫婦銀杏」や「旧役場大蘇鉄」のように、気軽に立ち寄って見られるものもあります。私たちは、祖先が大切に残してきた様々な歴史・伝統・文化を、これからも保護・育成し、次世代へ継承していかなければなりません。

【国天然記念物】

~天然記念物~



《ミヤコタナゴ》

ミヤコタナゴは、関東地方にしか分布して
いなく、コイ科タナゴ亜科アブラボテ属の小
型淡水魚で、二枚貝のエラに産卵するのが特
徴です。

昭和49年に国の天然記念物に指定され、
平成6年には「絶滅のおそれのある野生動植
物の種の保存に関する法律」による国内希少
野生動物種に指定されました。

所有 御宿町

【県指定文化財】

~史跡~



《ドン・ロドリゴ上陸地》

慶長14年(1609)に、前フィリピン
諸島長官ドン・ロドリゴの乗った船が、メキ
シコのアカプルコ港へ帰還途中、暴風雨に遭
い、岩和田の田尻沖で遭難しました。その時、
岩和田の村民が総出で救助活動を行い、31
7名が生還したと伝えられています。

所有
御宿町

~歴史資料~

	<p>江戸時代の岩和田は、大多喜藩に属していました。この図は、町の歴史に関連を持つ資料として、また、火器中心だった幕末の軍備の様子を理解する歴史資料としても貴重なものです。</p> <p>縦28.9cm 横10.41mで卷子仕立になっています。</p> <p>所有 御宿町</p>
--	--

《紙本著色大多喜藩陣列之図》

【町指定文化財】

有形文化財

~彫刻~

	<p>主な特徴 寄木造り、漆箔、玉眼、ヒノキ材 像高63.2cm</p> <p>造像時代 江戸時代の前半</p> <p>所有 妙音寺</p>
--	--

《木造阿弥陀如来坐像》



《木造大日如来坐像》

主な特徴
寄木造り、漆箔、玉眼、ヒノキ材
像高63.0cm

造像時代
室町時代の上期

所有
真常寺



《木造如意輪観音坐像》

主な特徴
寄木造り、漆箔、玉眼、ヒノキ材
像高59.5cm

造像時代
室町時代の上期

所有
真常寺



《木造阿弥陀如来及び両脇侍立像》

主な特徴
如来像 像高14.0cm
両脇侍像 像高 8.0cm

造像時代
江戸時代の中期より前

所有
十王堂



《木造阿弥陀如来坐像》

主な特徴
寄木造り、漆箔、玉眼、ヒノキ材
像高102.7cm

造像時代
江戸時代の中期

所有
観音寺



《木造傳祐上人坐像》

主な特徴
寄木造り、彫眼、素地、ヒノキ・松材
像高41.0cm

造像時代
江戸時代の初期

所有
最明寺



《閻魔胎内像・十王像》

主な特徴
大王 像高77cm
各王 像高24.4cm
胎内像 像高15cm

造像時代
江戸時代の初期

所有
十王堂

 <p>《月夜見神社の宝塔》</p>	<p>主な特徴 高さ18.0cm、周囲61.0cm</p> <p>製作年代 室町時代の初期</p> <p>所有 三夜様</p>
 <p>《久保区行屋跡の宝塔》</p>	<p>主な特徴 高さ21.0cm、周囲64.0cm</p> <p>製作年代 不明</p> <p>所有 久保区</p>
 <p>《薬師堂の磨崖佛》</p>	<p>主な特徴 像高64cm 座巾60cm</p> <p>その他 地上230cmのところを、奥行110cm、高さ96cm、巾260cmの洞窟をくり抜いて掘られています。</p> <p>所有 宝蔵寺</p>
 <p>《実谷区八坂神社旧神輿の胴廻りの飾り彫刻》</p>	<p>彫工名 房州加茂村住後藤傳吉郎</p> <p>製作年 弘化3年(1846)</p> <p>縦24.0cm 横39.0cm</p> <p>所有 実谷区</p>



《最明寺向拝の獅子頭、象鼻の彫刻》

この飾り彫刻は、著名な武志伊八郎信由(波の伊八)の制作によるものです。制作された年代は、最明寺の旧本堂が建築された頃と思われます。

所有
最明寺



《堂坂薬師の磨崖佛》

主な特徴
像高42cm 肩張り20cm

その他
洞窟の大きさは高さ2m、奥行き86cm、横180cm

所有
浜区

~ 工芸品 ~



《堂坂薬師の手洗い鉢》

主な特徴
高さ40cm、盃形

その他
江戸時代初期に、紀州湯浅村から上総の当地方へ鰯漁に来ていた者が奉納したものです。

所有
浜区



《双盤》

これは、天台宗で用いる佛具です。伏鉦の大型なもので、框に取り付けて撞木で鳴らすものです。

製作年代
江戸時代の中期

所有
最明寺

 <p>《亀甲地双鶴鏡》</p>	<p>主な特徴 円鏡、直角式、中縁 亀甲亀、二圏</p> <p>製作年代 室町時代の上期</p> <p>所有 妙音寺</p>
 <p>《白銅鏡》</p>	<p>主な特徴 円鏡、直角式、厚縁 亀甲亀、二圏</p> <p>製作年代 江戸時代の中期</p> <p>所有 妙音寺</p>

～ 古文書～

 <p>《十王堂縁起》</p>	<p>元禄9年(1696)に、称名念佛の道場として、妙音寺より十王堂へ移転した縁起を、音蓮社響誉上人忍阿随良が記したものです。</p> <p>所有 十王堂</p>
--	---

～ 歴史資料～

 <p>《旧布施村絵図》</p>	<p>この絵図は和紙をつないで画かれたもので、縦2.97m、横2.6mの大きなものです。(実谷村、上布施村、下布施村) 作成者は、大瀧領大原里、藤江藤右衛門道信と記されています。</p> <p>所有 御宿町</p>
---	---

 <p>《ハワイ出稼ぎ渡航関係書類》</p>	<p>関係書類とは、旅券、移民取扱人との契約書、ハワイ国弁理公使兼移住民事務局特派員 R. Wアールウィンとの契約書、日本移民協会・本人・MCBRYDE SUGAR COとの契約書のことです。</p> <p>所有 個人</p>
 <p>《ドン・ロドリゴ関係遺品・サンフランシスコ号檣》</p>	<p>鑑定の結果、サンフランシスコ号の檣であることが確認されました。材は北欧或いは西欧産であることもうかがわれます。</p> <p>所有 個人</p>

民俗文化財

～無形～

 <p>《神楽囃子》</p>	<p>高山田区と上布施区の小幡地区において、神楽囃子が伝承されています。</p> <p>それぞれの由来はありますが、小幡地区は病疫、悪魔の退散、五穀豊穡を祈願するために始めたのがきっかけと言われています。</p> <p>伝承者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高山田神楽囃子保存会 ・上布施神楽囃子保存会
---	--

～有形～

 <p>《伊勢参宮絵馬》</p>	<p>天保4年(1833)の伊勢大神宮参詣絵馬は、門前市の賑わいや、小屋の中で三弦を弾く女性と前を通る参詣者の様子を描いた風俗画です。</p> <p>縦77cm 横1.89m</p> <p>所有 八幡神社</p>
 <p>《千箇寺参御首題帳》</p>	<p>この御首題帳は、千箇寺参りをしたときのものです。和紙で綴られています。御首題帳に記された寺院数は、全部で240寺あります。</p> <p>所有 個人</p>
 <p>《貝海女具一式》</p>	<p>御宿の海女の潜水服は独特で、半トウロクとパンツです。白浜・志摩・触倉の海女とは異なります。</p> <p>所有 御宿町</p>
 <p>《御宿の海女の群像》</p>	<p>故岩瀬禎之氏による、御宿の海女を被写体とした写真のネガ31点が指定されています。(左写真はその一部を現像したもの)</p> <p>昭和31年に日本美術展へ出品した際には、内閣総理大臣賞を受賞しました。</p> <p>所有 御宿町</p>

記念物

～ 史跡～

 <p>《千人塚供養塔》</p>	<p>大昔に災害で亡くなった犠牲者を葬るために、既設の供養塔を下ろして移築し、包括総合をした複合供養塔です。</p> <p>所有 妙昌寺</p>
 <p>《孝女竹永志保の碑》</p>	<p>この碑は、故竹永志保の事績を後世に伝えようと、没後55年を期して建立したものです。</p> <p>碑は、縦1.56m横1.07mの石碑に志保の事績が刻まれています。</p> <p>所有 上布施区</p>
 <p>《真常寺石塔》</p>	<p>鎌倉で非業の死を遂げた、上総介平広常の供養塔と伝えられています。</p> <p>この塔は、上下両石とも内部が底までえぐり抜かれていて、奉籠物が布施塚の塔とは異なっています。</p> <p>製作年代 鎌倉期</p> <p>所有 真常寺</p>

～天然記念物～



《最明寺夫婦銀杏》

両樹は共に同年代のもので、数百年の樹齢を保ち、元禄16年の大津波にも堪えました。

幹回り3.6m、樹高23m

所有
最明寺



《旧役場大蘇鉄》

根元幹周り1.6m、樹高5.2m、大主幹8本、株囲2.6m

所有
御宿町